

会 員 各 位

平成 28 年 9 月 日

大 垣 歯 科 医 師 会  
会 長 片 野 雅 文  
学 術 理 事 岩 田 浩 行

## 第 1 回 学 術 講 演 会 開 催 の ご 案 内

初秋の候 平素は当会事業に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、第 1 回学術講演会を下記の予定にて行います。万障お繰り合わせのうえ是非ともご出席賜りますようお願い申し上げます。

尚、準備の都合上ご出欠のお返事を 10 月 26 日（水）までに事務局 **FAX:81-8989** までにご返信のほどよろしくお願い致します。

### 記

日 時： 平成 28 年 11 月 6 日（日）  
10:00 ~ 12:00

場 所： 大垣歯科医師会館 3 階 大会議室

演 題： 「地域医療で担う嚙下リハビリテーション」

講 師： 朝日大学客員教授・昭和大学名誉教授

向井 美恵 先生

#### 職 歴

1973 年 大阪歯科大学卒業  
1981 年 昭和大学歯学部講師  
1989 年 昭和大学歯学部助教授  
1997 年 昭和大学歯学部教授



### 出 欠 票

第 1 回 学 術 講 演 会 に 出席する 欠席する

歯科医院

氏名

「地域医療で」担う摂食嚥下リハビリテーション」

向井美恵(朝日大学客員教授)

歯・口の機能低下は、加齢性筋肉減弱症(サルコペニア)や運動器症候群(ロコモティブシンドローム)の前兆とも考えられ、口腔領域の多面的なケアと摂食嚥下リハビリテーションが「オーラル・フレイル」の予防のみならず全身の健康の維持回復に寄与することもわかってきた。

特に、摂食嚥下リハを栄養面からみると、歯・口の健康への関心度が低く、歯周病や齲蝕を放置して重症化を招き、歯を喪失するなどして口の中の摂食嚥下機能が低下すると、滑舌が悪くなり、食べることができ難いものが増え、食欲低下やバランスの良い食事を摂ることができず、噛む力や舌の動き、食べる量が低下し、低栄養、代謝量の低下、サルコペニアを引き起こす要因となり、要介護状態に陥ることとなる。地域医療で担う摂食嚥下リハビリテーションは、これらの症状への対応に加えて、他の医療機関と連携して要介護状態の摂食嚥下障害の患者への対応も必要となる。

医療保険制度改革の1つの柱として掲げられている“在宅医療の推進”に関連して、個人立の小規模医療機関が大部分を占める歯科においては、外来診療と並行した訪問診療では負担が大きすぎることを考慮すると、在宅訪問歯科医療、在宅訪問口腔ケアは包括ケアシステムの中で連携や協力体制を確保していく必要がある。

地域の医療福祉関連の多くの職種がその専門性のどの部分で連携が可能か、連携の実際について提示してみたい。

。